

当院採用の経皮吸収型製剤一覧 (局所作用製剤を除く)

商品名 (薬効分類)	貼り替え	貼付部位								MRI検査時の対応	剥がれたときの対応	分割使用(テープの切断)について	
		胸部	上腕部	腹部	背部	腰部	臀部	大腿部	その他				
ワンデロパッチ (鎮痛薬、医療用麻薬)	24時間毎	○	○	○					○	※1	支持体に金属を含まないが、安全性が検討されていないため剥離することを推奨 ¹⁾ 。	粘着力が弱くなった場合はパッチを剥離し、直ちに同用量の新たなパッチに貼り替えて、次回貼り替え予定であった時間まで貼付 ²⁾ 。	切断不可 ²⁾
デュロテップMTパッチ (鎮痛薬、医療用麻薬)	3日毎	○	○	○					○	※1	支持体に金属を含まないが、安全性が検討されていないため剥離することを推奨 ¹⁾ 。	粘着力が弱くなった場合はパッチを剥離し、直ちに同用量の新たなパッチに貼り替えて3日間貼付 ²⁾ 。	切断不可 ²⁾
フェンタニル 3日用テープ「HMT」 (鎮痛薬、医療用麻薬)		○	○	○					○	※1	支持体に金属を含まないが、安全性が検討されていないため剥離することを推奨 ¹⁾ 。	粘着力が弱くなった場合は絆創膏等で縁を押さえる。完全に剥離した場合は、直ちに同用量の新たな本剤に貼り替え、次回貼り替え予定であった時間まで貼付 ²⁾ 。	切断不可 ²⁾
フェントステープ (鎮痛薬、医療用麻薬)	24時間毎	○	○	○					○	※1	支持体に金属を含まないが、安全性が検討されていないため剥離することを推奨 ¹⁾ 。 (参考：フェンタニルクエン酸塩1日用テープ「テイクコ」 金属成分を含む着色剤が使用されている ¹⁾ 。	粘着力が弱くなった場合は絆創膏等で縁を押さえる。完全に剥離した場合は、直ちに同用量の新たな本剤に貼り替え、次回貼り替え予定であった時間まで貼付 ²⁾ 。	切断不可 ²⁾
フェンタニルクエン酸塩1日用 テープ「第一三共」/「テイクコ」 (鎮痛薬、医療用麻薬)		○	○	○					○	※1	支持体に金属を含まないが、安全性が検討されていないため剥離することを推奨 ¹⁾ 。 (参考：フェンタニルクエン酸塩1日用テープ「テイクコ」 金属成分を含む着色剤が使用されている ¹⁾ 。	粘着力が弱くなった場合は、直ちに貼り替えて7日間貼付 ²⁾ 。	切断不可 ²⁾
ノルスバンテープ (鎮痛薬)	7日毎	前胸部	上腕外部		上背部					側胸部	支持体にアルミを含有し、本剤の貼付部位に火傷を引き起こすおそれがあるため、前もって 本剤を必ず剥離 ²⁾ 。	粘着力が弱くなった場合は、直ちに貼り替えて7日間貼付 ²⁾ 。	切断不可 ²⁾
ジクトルテープ (鎮痛薬)	24時間毎	○	○	○	○	○			○		支持体に金属を含まないため、剥離する必要はないと思われる ¹⁾ 。	全て剥がれた場合や、何度も剥がれる場合は新しいもので貼り直す ¹⁾ 。	承認外で 推奨しない 。 (製剂的には可能) ¹⁾
ピソノテープ (降圧薬・抗不整脈薬)	24時間毎	○	○		○						支持体に金属を含まないため、剥離する必要はないと思われる ¹⁾ 。	絆創膏等で補強しても剥がれる場合は、次回の貼付時間になってから新しいテープを貼付 ³⁾ 。	承認外で 推奨しない 。 (分割使用する際は、残りは遮光保存し翌日使用) ¹⁾
ブランドルテープ (虚血性心疾患治療薬)	24時間または 48時間毎	○※2		上腹部※2	○※2						支持体に金属を含まないため、剥離する必要はないと思われる ¹⁾ 。	汗で濡れた肌を清潔なタオルなどで拭き取り、テープのシワを伸ばしてから、 部位を変えて貼り直す ³⁾ 。	承認外で 推奨しない 。 (製造上で切断しており、製剂的には問題ないと思われる) ¹⁾
ニトログリセリンテープ「トロー」 (狭心症治療薬)	24時間毎	○※2	○※2			○※2					支持体に金属を含まないため、剥離する注意喚起は行っていない ¹⁾ 。	新しい薬剤を貼付し、次回はいつも貼り替えていた時間に貼り替える ¹⁾ 。	切断部から薬剤が漏れることはないが、1枚中の薬剤の均一性のデータなく、切断は 推奨しない ¹⁾ 。
ミリステープ (狭心症治療薬・急性心不全治療薬)	12時間毎	○※2	○※2	上腹部※2	○※2				○※2		支持体に金属を含まないが、検証していないため 剥離を推奨 ¹⁾ 。	粘着力次第で再貼付可 、ただし皮膚に密着しない場合は新しいものを貼付 ¹⁾ 。	薬剤は均一だが、切断部から主成分が揮発するおそれがあり 推奨しない ¹⁾ 。
ツロブテロールテープ「久光」 (気管支拡張薬)	24時間毎	○	○		○						支持体に金属を含まないが、画像診断に影響が出る恐れがあるため 剥離を推奨 ¹⁾ 。	データがないため医師の判断 ¹⁾ 。 (参考：先発品ホクナリテープ) 貼付から12時間以上経過し症状が落ち着いている場合は、次回貼付時間になってから新しいものを貼付。貼付から12時間以内の場合はすぐに新しいものを貼付し、次回はいつも貼り替えていた時間に貼り替える ¹⁾ 。	切断時のデータなく、認められた用法でないため 推奨しない ¹⁾ 。
アレサガテープ (抗ヒスタミン薬)	24時間毎	○	○	○	○						支持体に金属を含まないが、画像診断に影響が出る恐れがあるため 剥離を推奨 ¹⁾ 。	全部剥がれた場合は新たなものを翌日の貼り替え時間まで貼付 ¹⁾ 。	切断時のデータなく、認められた用法でないため 推奨しない ¹⁾ 。
ネオキシテープ (過活動膀胱治療薬)	24時間毎			下腹部	○				○		支持体に金属を含まないが、画像診断に影響が出る恐れがあるため 剥離を推奨 ¹⁾ 。	新しい薬剤を貼付し、次回はいつも貼り替えていた時間に貼り替える ¹⁾ 。	切断時のデータなく、認められた用法でないため 推奨しない ¹⁾ 。

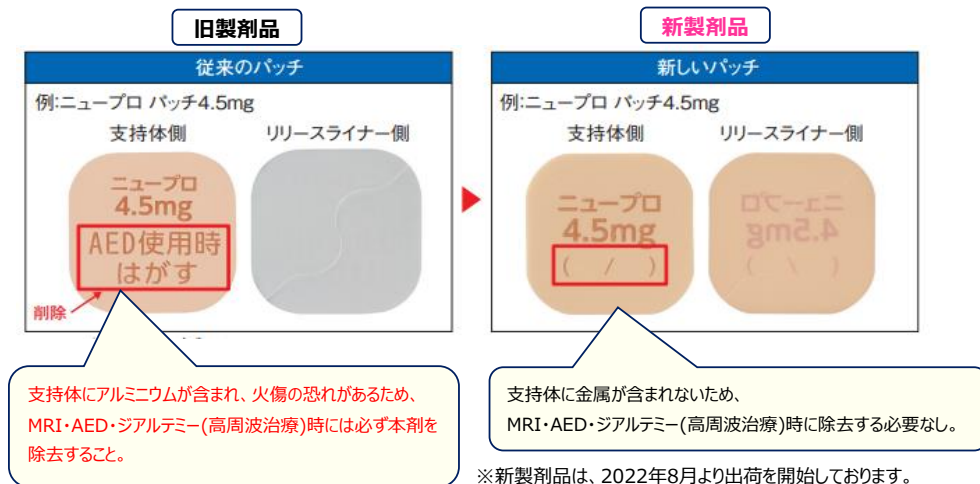
※1: 貼付部位は「胸部, 上腕部, 腹部, 大腿部等」 ※2: 自動体外式除細動器(AED)の妨げにならないように貼付部位を考慮するなど、患者、その家族等に指導することが望ましい²⁾。

参考文献：製薬会社問い合わせ¹⁾、添付文書・IF²⁾、製薬会社HP³⁾

商品名 (薬効分類)	貼り替え	貼付部位								MRI検査時の対応	剥がれたときの対応	分割使用(テープの切断)について
		胸部	上腕部	腹部	背部	腰部	臀部	大腿部	その他			
エストラーナテープ (卵胞ホルモン製剤)	2日毎			下腹部				○		支持体に金属を含まないが、画像診断に影響が出る恐れがあるため 剥離を推奨¹⁾ 。	医師の判断により新たなものを貼付または次回貼付時に貼付する ¹⁾ 。	切断時のデータなく、認められた用法でないため 推奨しない¹⁾ 。
メノイドコンビパッチ (卵胞ホルモン・黄体ホルモン混合製剤)	3~4日毎 (週2回)			下腹部						支持体に金属を含まないが、画像診断に影響が出る恐れがあるため 剥離を推奨¹⁾ 。	貼付部位を変えて再貼付 、それでも剥がれる場合は新たなものを貼付 ¹⁾ 。	切断時のデータなく、認められた用法でないため 推奨しない¹⁾ 。
リバスチグミンテープ「久光」 (認知症治療薬)	24時間毎	○	○		○					支持体に金属を含まないが、画像診断に影響が出る恐れがあるため 剥離を推奨¹⁾ 。	新しい製剤に貼り替え、翌日より通常通りの時間に貼り替える ²⁾ 。	切断時のデータなく、認められた用法でないため 推奨しない¹⁾ 。
ロナセンテープ (統合失調症治療薬)	24時間毎	○			○	○				支持体に金属を含まないため、剥離する必要はないと思われる ¹⁾ 。	再貼付 又は必要に応じて新しいものを貼付 ²⁾ 。	切断不可²⁾
ニュープロパッチ (パーキンソン治療薬・ レストレスレッグス症候群治療薬)	24時間毎		○	○					肩 側腹部	★備考①参照★ 旧製剤 ：支持体にアルミを含むため 必ず本剤を剥離³⁾ 。 新製剤 ：支持体にアルミは含まれないので剥離する必要なし ³⁾ 。	新しいパッチを貼付し、次回はいつもとと同じ時刻に貼付 ³⁾ 。	切断不可²⁾
ハルロピテープ (パーキンソン治療薬)	24時間毎	○	○	○					側腹部	支持体に金属を含まないが、画像への影響や安全性について検討していないため 剥離を推奨¹⁾ 。	直ちに新たなテープを貼付し、次の貼り替え予定時間には新たなテープに貼り替える ²⁾ 。	切断時のデータなく、認められた用法でないため 推奨しない¹⁾ 。
ニコチネルTTS (禁煙補助薬)	24時間毎		○	○	○	○				支持体にアルミを含有し、貼付部位に火傷を引き起こす可能性や、支持体が破裂する可能性があるため 必ず剥離²⁾ 。	新しいものを推奨するが、粘着力低下の場合は テープ等で固定して再貼付も可 。次回はいつも貼り替えていた時間に貼り替え ¹⁾ 。	リザーバー型薬剤であり、放出速度が変わるため 切断不可¹⁾ 。

参考文献：製薬会社問い合わせ¹⁾、添付文書・IF²⁾、製薬会社HP³⁾

(備考①) ニュープロパッチの製剤変更について



参考：大塚製薬株式会社 支持体組成変更並びに電子化された添付文書改訂のお知らせ (2022年6月)

(備考②) 経皮吸収型製剤の切断について

経皮吸収型製剤の切断については、理論的に可能なものについても、薬物動態のデータがないことや、剥がれやすくなることなどから、**原則として推奨されておりません。**

(備考③) AED(自動体外式除細動器)時の対応について



- MRIと同様に、**支持体に金属を含む貼付剤については必ず剥離してください。**
- それ以外の貼付剤についても、AEDの添付文書の禁忌・禁止欄に以下の記載があるため、**AEDのパッドを貼る位置に貼付剤がある際は、貼付剤を剥離してください。**

(例) 自動体外式除細動器 AED-3200シリーズ 添付文書
使い捨てパッドを貼る位置に検査などの目的で、患者に他の装置の電極が装着されている、薬剤が貼付されているときは、それらを取り除いてから使い捨てパッドを貼ってください。
(電気ショックの効果が得られず、電極や薬剤を通して流れる電流により熱傷を生じることがあります。)